

明治十六年六月

文書局

文書局

官報郵税ノ件ニ付驛通局ト特別約定ノ儀該局  
總官ト預メ協議ノ上約案相伺裁可ヲ經テ本年  
五月十一日雙方調印約書交換致置候處其後該  
局ヨリ郵便税五厘ノ文字郵便條例ニ抵触ノ嫌  
アルト且手数料ト稱スル者ハ會計上取扱方煩  
雜ニ涉ルトニ由リテ郵税ハ普通ノ規則ニ從ヒ  
壹錢トナシ手数料ヲ要セサルトニ改正致度旨

甲一三六

文書

文書局

明治十六年六月

文書局

官報郵税ノ件ニ付驛通局ト特別約定ノ儀該局  
 総官ト預メ協議ノ上約案相伺裁可ヲ經テ本年  
 五月十一日雙方調印約書交換致置候處其後該  
 局ヨリ郵便税五厘ノ文字郵便條例ニ牴觸ノ嫌  
 アルト且手数料ト称スル者ハ會計上取扱方煩  
 雜ニ涉ルトニ由リテ郵便ハ普通ノ規則ニ從ヒ  
 壹錢トナシ手数料ヲ要セサルトニ改正致度旨

十三

甲二二六

文書局

照會有之右約定ハ郵便條例第十八條ニ據リ総  
官ト特別取結ヒタルモノナレハ只五厘ノ文字  
ヲ相改概算年額ヲ以テ約定スレハ差支無之筋  
ニ候ハレ該局モ官報賣捌ハ随分困難可有之趣  
且該局請求ノ通改正致候ハ大體會計上差響無  
之儀ニ候間旁々約書并右ニ關スル命令書ノ箇  
條中改正致度依テ左按取調仰高裁候也

改正案

内約案

第一條 驛遞局ハ太政官命令書ニ從ヒ官報ノ  
郵送配達賣捌等ニ關スル一切ノ事務ヲ處理  
スヘシ

第二條 驛遞局ハ其賣捌キタル官報代金ノ内  
壹錢ヲ以テ郵税ニ充ツヘシ但官報ノ郵送配  
達賣捌等ニ關スル事務ヲ處理スルカ為ニ驛  
遞局ハ別ニ手数料ヲ要求セサルモノトス

第三條 東京府外ニ郵送スル官報ニハ他ノ郵

便ト混淆セサル為メ「税納濟」ノ印ヲ捺シ帶封  
ニシテ差立テ東京府下直配達ニ係ル者ハ此  
例ヲ用ヒサル等総テ驛遞局ノ便宜ニ任スヘ  
レ  
右双方叶議ノ上明治十六年五月十一日ノ約條ヲ  
改定シ爰ニ調印スル者也

明治十六年五月十一日  
前 大蔵文書局長  
後 驛遞局長

改正案

驛 遞 局

明治十六年五月十一日下附ノ命令書第三條第六  
條左ノ通改正ス

第三條 官報ハ志部貳錢ノ原價ヲ以テ交付

スルニ付志部三錢ノ定價ヲ以テ賣捌クヘ

レ但賣捌代金ハ前金ニ限ルモノトス

第六條 官報代價ハ驛遞局ニ於テ前一ヶ月

間ニ賣捌キタル現數ノ代價ヲ計筭シ翌月

十日迄ニ計筭書ヲ添ヘテ文書局ニ納ムヘ

レ但廣告料ハ前月ニ収入シタル者ヲ悉皆

便ト混淆セサル為メ「税納濟」ノ印ヲ捺シ帶封  
ニシテ差立テ東京府下直配達ニ係ル者ハ此  
例ヲ用ヒサル等総テ驛遞局ノ便宜ニ任スヘ  
レ  
右双方叶議ノ上明治十六年五月十一日ノ約條ヲ  
改定シ爰ニ調印スル者也

明治十六年五月十一日  
驛遞總官  
大正官文書局長

改訂案

驛 遞 局

明治十六年五月十一日下附ノ命令書第三條第六  
條左ノ通改正ス

第三條 官報ハ志部貳錢ノ原價ヲ以テ交付  
スルニ付志部三錢ノ定價ヲ以テ賣捌クヘ  
レ但賣捌代金ハ前金ニ限ルモノトス

第六條 官報代價ハ驛遞局ニ於テ前一ヶ月  
間ニ賣捌キタル現數ノ代價ヲ計算シ翌月  
十日迄ニ計算書ヲ添ヘテ文書局ニ納ムヘ  
レ但廣告料ハ前月ニ収入シタル者ヲ悉皆

計算シテ納ムルモノトス

明治十六年六月三十日

太政官

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

局 甲 一 二 六 號

明治十六年六月廿一日

大臣

内閣書記官



文書局上申官報郵税之儀ニ付  
驛遞局ト交換ノ約書并命令  
書中改正之事

右 田 議 供 ス

參 議

奈

藤

縣

山

大

山



山



井

松

山

依

参照

約定書

官報郵送ノ件ニ付左ノ條款ヲ約定ス

一 驛遞局ハ官報尙部ニ付郵便税五厘ノ割合ヲ以テ郵送スヘシ

一 官報ハ他ノ郵便物ト混淆セサル為メ郵便税納濟ノ印ヲ捺シ帶封ニシテ差立ツヘシ但東京府下直配達ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

明治十六年五月十一日

太政官文書局長平田東助

驛遞總 官野村 靖

知令書中  
附心ハキケ  
案

第三條

官報ハ寺部貳錢ノ原價ヲ以テ交附シ

手数料トシテ五厘ツ、附典スルニ付寺部三

錢ノ定價ヲ以テ賣捌キ五厘ヲ以テ郵便税ニ

充ツベシ但賣捌代金ハ前金ニ限ルモノトス

第六條

官報原價及廣告料ハ每翌月十日迄ニ

明細書ヲ添ヘテ文書局ニ納ムハシ

文書

文書



以下

参照

御邊向付  
後書局書

廿日ノ御書拜讀云々御示命ノ趣承知仕候免角  
 貴命ニ應レ可申併特別ノ約束ヲ以テ無印紙遞  
 送ス公筋ニモ取極メ候ハ、條例ニ差支モ無之  
 ト存候此邊ハ更ニ御快議可申上候尤モ千五百  
 部内外トノ御事ニ付前條御受モ出来候ハ、氏其  
 余相嵩ニ候テハ困ル事ニテ候此邊ハ御會ニ可  
 被下候奉復

十二月

野村

靖

小松原當

大正  
野村  
靖

官報無稅郵送ノ件ニ付客月二十二日御答示ノ  
趣領承仕候部數ハ千五百部ト限リ置可申候就  
テハ特別約束ハ如何様ノ約束ニ致候テ可然歟  
御手數恐縮ノ至奉存候得共右約束ノ箇條取調  
ヒ命草案御廻レ被下候ハ、幸甚ノ至存候此段  
御依頼得貴意候教具

十六年一月六日

小松原英太郎

野村驛通總官殿

官報郵送御約束ノ儀ニ付本月六日御申越ノ趣  
領承右ハ物数重量等總テ概算年額五百圓ヲ以  
テ御約束可申就テハ左ノ件々得御意度

一各郵便局ニ於テ取扱上一般ノ郵便物ト混交  
セザル為メ右郵便物へ郵便税納濟ノ印判ヲ  
捺シ御差出相成度

一右郵便物ハ閑封若クハ帶封ヲ以テ御差出相  
成度

一右郵便物数ハ千五百部ノ趣ニ候得共若シ増

減アルキハ其旨御報知相成度

一御約束期限ノ義ハ會計年度ノ都合等有之候  
ニ付本年 月ヨリ同六月迄ト定メ爾後ハ義  
猶其際ニ至リ繼續若シクハ改約ノ義何分ノ  
御悞議可申候

一収納税五百円ノ年額ハ之レヲ月額即チ月十二  
割リ四拾壹円六拾六錢余ニ相成候處毎月四  
拾壹円ツ、トシ其端數ハ満期ノ末月ニ一同  
御差越シ相成度

右ノ他猶巨細ノ件々ハ當局主務ノ者へ御商議

ノ上為取計候様致度此段及御照會候也

十六年一月十三日 野村 靖

小松原英太郎殿

一日 千五百部

一ヶ月 三萬七千五百部

一ヶ年 四拾五萬部

四拾五萬部ヲ以テ五百円ヲ割レハ一部壹  
厘壹毛壹分余ニナル

参照

今般當省驛遞局へ官報發賣被命候處該條款第  
 三條ニ官報ハ壹部貳錢ノ原價ヲ以テ交付スル  
 ニ付三錢ノ定價ヲ以テ其五厘ヲ手数料トシ五  
 厘ヲ郵便税ニ充ツヘレト有之候處右官報タル  
 特ニ政府ノ發行ニ係ルヲ以テ民間普通ノ新聞  
 雜誌類トハ自ラ殊別モ可有之哉ニ候得共郵便  
 條例ニ擬テ稽フル片ハ第三種郵便物即定時印  
 刷物ノ部内ニ入ルヘキモノニシテ該官報ニ限  
 リ一部ノ郵税ヲ五厘トセララル、片ハ右條例第

十七條ニ第三種郵便物ハ一號一個重量十六匁  
毎ニ一錢トアルノ税率ニ抵觸スルノ嫌ナキ能  
ハス加之本年第二十二御達別記ニ官報定價ハ  
配達郵便費トモ売部三錢ト有之ニ付テハ配達  
郵送ヲ要セス直ニ驛遞局ニ就テ賣下ヲ乞フモ  
ノアルキハ第三種郵便物ノ税率ニ相當セル売  
錢ヲ減シ原價貳錢ヲ以テ賣捌カサルヲ得サル  
モノ、如シ就テハ這回發行ノ官報ハ特種ノモ  
ノニ付売部五厘ノ税額トセラル、ノ御主意ニ  
候ハ、一般御布告相成候方妥當ヲ得候儀ト奉

存候若又此儀御詮議難被及筋ニ候ハ、前陳御  
下命相成條款中第三條御改正相成候様仕度尤  
モ驛遞局於テハ談官報賣捌ハ為別段手数料等  
ヲ不要儀ニ有之候條右兩様ノ内至捷御指揮相  
成度別紙改正案相添此段稟議候也

明治十六年五月三十一日

驛遞局

太政官文書局

御中

改正案

第三條

官報ハ志部貳錢ノ原價ヲ以テ交付スルニ付志部三錢ノ定價ヲ以テ賣捌其志錢ヲ以テ郵便税ニ充ツヘシ  
但

官報發賣ノ廣告致拜見候貴案ノ通ニテ可然ト  
存候但文字上多少修正相加候扱又官報郵税ノ  
儀ニ付過日御談示有之候處右ハ驛遞總官ト特  
別約定ヲ以テ取極メタルモノニ有之候間別段  
差支ハ無之事ト存候即郵便條例第十八條ニ郵  
便物ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付スルヲ以テ  
之ヲ納メタルモノト云々但驛遞總官ト約定  
アルモノハ此限ニアラズトノ个條ヲ適用候ハ  
、毫不都合無之哉ト存候



一官報配達ノ儀府下ハ午前五時半ニ貴局ヲ送  
レ配達可相成旨廣告中ニ有之然ルニ府外郵  
送ノ分モ神奈川縣千葉縣等ノ如キ午前ニ送  
レタル郵便物即日到達ノ場所ハ五前五時半  
送御郵送ノ分ニ御取料相成度候右ハ今回制  
定相成候布告施行期限郵便到達日限ニモ多  
少關係モ有之候事ニ御坐候間必ス午前五時  
半送ノ事ニ致度ト存候  
右要用得貴意候拜具

十六年六月四日

小松原英太郎

真中一等驛遞官殿

官報發賣ノ廣告按御加書ノ趣ハ意見無之其通  
可致候扱又官報郵便税ノ義ニ付及御悞議候件  
ハ郵便條例第十八條ノ但書ヲ適用セハ不都合  
無之トノ御意見ニ候處右ハ要スルニ切手貼用  
ノ手数ヲ省キ候迄ノ精神ニシテ外國於テモ同  
様ノ例ニ有之現時其約束ノ仕方ナル半年若シ  
クハ一々年ノ郵便物及其種類ヲ概數シ稍之ニ  
適當セル税額ヲ定メ収納候義ニシテ決シテ税  
額ヲ左右スルノ趣意ニ無之則チ郵便條例第十

七條ノ定税ハ驛逋總官ノ權内ニ於テ動レ得ラ  
レサルモノト御瞭知相成豫テ及御悞議候廉ニ  
對レ尚何分ノ御答ヲ要レ候

官報配達方神奈川千葉兩縣ノ義ハ午前五時三  
十分發送可致旨来示ノ趣神奈川縣ハ同地配達  
ノ初便九時十五分ナルヲ以テ其配達ニ組入候  
様送達可致千葉縣ノ方ハ毎日午前九時二十分  
午後七時三十分發送兩便ニ付午前便ニテ逋送可  
致候得共彼地到達ハ午後四時前後ナレハ當日  
配達レ得ルモ縣廳ハ退出後ニ可相成候右御答

旁申進候也

十六年六月五日

野村驛逋總官

小松原英太郎殿